

学校ニュース **7月** **学びを深める子どもたち** ～ふるさと郡上（白鳥）を愛し、地域と共に高まる学校に～

人との「関わり」を深める子どもたち

本校で、子どもたちの学校生活の核になっている「なかよし宣言」。友だちとなかよく活動すること、互いに温かな言葉（ニコニコ言葉）かけをすること、目を見て明るい挨拶をすることを大切に、毎日笑顔があふれ、学校に来るのが楽しくなる大中小学校にするための宣言です。このなかよし宣言を達成していくには、人との「関わり」は外せません。

「関わり」方は、「子どもどうし」「子どもと親や家族」「子どもと地域の人」「子どもと教師」…と、さまざまです。子どもたちは、いろいろな人と関わりながらたくさんのことを学んでいきます。その中でも、学校だからこそできる「関わり」が「子どもどうし」です。仲間から学ぶ、仲間と学ぶ、仲間とともに歩いていく中で学ぶことは、人生の計り知れない財産になっていくはずで

大中小学校では、1年生から6年生で構成する「なかよし班」で、いろいろな活動をしています。掃除、なかよし班遊び、大なわ跳びなどです。1年生から6年生と一緒に活動をすることで、上級生は下級生を思いやり、上級生らしく主体的に動いたりするようになり、下級生は上級生の姿をお手本にしたり、異学年と交わることの楽しさを覚えたりしていきます。実際、6年生は下級生の憧れであり、その6年生の姿を見て、5年生や4年生も頑張ろうとしています。

コミュニケーション能力の重要性をよく耳にする昨今ですが、このように異学年どうしの関わりを深めていくことで、学級の中の営みでは得られない心や力が身に付いていきます。

なかよし宣言
◎友達となかよく活動します。
◎ニコニコ言葉をつかいます。
◎目を見て開いた挨拶をします。



いざという時のために・・・救命講習会

7月2日にPTA研修委員会が主催して保護者が、7月7日には5・6年生が、救命講習会を行いました。胸骨圧迫のやり方では、1分間に100回を目安にやり続けることを教えていただきました。また、AEDの使い方では、倒れている人を見つけたら呼吸を確認し、AEDを装着して、音声に従って操作し、状態によっては胸骨圧迫をし続ける流れを教えていただきました。いざという時に、命を助ける大切な訓練を行うことができました。



シリーズ大中学（郡上学）⑤『鮎の友釣りを体験しよう』

4年生は、長良川をテーマに学習しています。世界農業遺産となった、清流長良川の鮎の友釣りを、大中小学校の子どもたちにもぜひ体験させてあげたい、という地域の方のご厚意で実現しました。お師匠さんからはさおの使い方や釣り方を教えていただきました。鮎釣りはなかなか難しかったですが、中には見事に釣った子どももいて、大喜びしていました。とても貴重な体験ができました。

お師匠さん：山下國男さん、中島武さん、猪俣久男さん、尾藤信吾さん、尾藤亮三さん、
尾藤秋夫さん

おとり鮎を準備してくださった
お世話をしてくださった

鷺見重正さん
佐藤百合子さん

ありがとうございました。



シリーズ大中学（郡上学）⑥

『白鳥おどりを学ぼう』

3年生は「地域の名人さん」から学ぶ学習で、白鳥おどりを教えていただきました。まず、白鳥踊りの「源助さん」や「世栄」をお師匠さんの踊りをお手本にみんなで踊りました。上手に踊るコツを教えていただくと、子どもたちはみるみる上手になっていきました。次に、太鼓を打たせていただきました。打つリズムを口で言いながら、太鼓のまん中を打つよう気を付けて、全員が体験しました。今後、夏祭りや運動会で、3年生の子どもたちの上達したおどりを見られるのが楽しみです。

おどりのお師匠さん：國居嘉三さん

太鼓のお師匠さん：垣見重正さん

ありがとうございました。



珍しい黄色いどじょう

ある日の夕方、大島の郷戸善久さんが、黄色いどじょうを子どもたちのために持って来てくださいました。家の前の用水にいたそうですが、とても珍しいどじょうです。持って来てくださった時は、少し弱っていましたが、今では元気よく校長室の前の水槽の中で泳ぎまわっています。休み時間には、子どもたちが様子を見に集まっています。



夏休みが始まります！

いよいよ38日間の長い夏休みが始まります。どの子もこの夏休み、学習や研究、プール、お手伝いとめあてや計画を立て、最後までやり切ろうとはりきっていることでしょう。そして、何よりも健康で安全な夏休みであることが大切です。8月28日には、大中小学校の111名全員が元気に笑顔で登校してくれることを楽しみにしています。